

ケアラーへの支援が よいケアにつながります。

ケアラーはこんな現状におかれています。
そして、こんな支援を求めています。

ケアラーを支えるための
実態調査から

夜3回のトイレ介助で頭が重く、寝不足がツライ。
でも見守っていないと何かあったとき、
夫の兄弟に責められるのは
私でしょう。

認知症の母を3年と
高次脳機能障害の兄を30年ケアし、
自身も病気がちですが、
介護をしながら短時間でも
働ける場所がほしいです。

がんの夫を2年前からケアしています。
家計が苦しく新聞配達もしています。
疲れて人と会っても笑顔ができません。
でも代わってくれる人はいません。

自分を理解してくれる
ひとがほしかった。
「だれか、助けて」と
叫びたかった。

介護がなければ生活が
もう少し楽になるとか、
そんなみにくいことを考える自分が
情けなくなります。
家族みんなが優しい気持ちで
母の介護を続けたいのです。

子どもが生まれて
365日×子どもの年齢の期間、
まったく無休状態です。
TVで流れる番組や
雑誌のファッションページなどは
大キライです。

自分の時間がなかなかとれないけれど、
少しの時間でも社会に参加できる場所や職場が
あったらいいな～と思います。
ケアラーの経験がいかせる
ボランティアもしてみたい。

ケアラーの実態を知り必要な施策につなげるための調査です。

「ケアラー」には、身体的、精神的、さらに経済的にも負担が重くのしかかっています。ケアによって仕事を辞めざるを得なかったり、社会とのかかわりが減り、社会的・心理的孤立を深めているケアラーも少なくありません。「ケアラーを支えるための実態調査」は、このようなケアラーのおかれている実態を把握し、「ケアラーを総合的に支援するしくみや施策をどのように考えたらよいのか」を明らかにすることを目的として実施しました。

ケアラーを支えるための 全国調査を実施しました

ケアラーを広くとらえ、地域の支援につながるよう実施した日本で初めての調査です。

ケアを広範囲にとらえ、要介護高齢者や身体的・知的・精神的などの障がい者の介護、難病などの看病、あるいは病児や障がい児の療育、さらには依存症やひきこもりなどの家族や知人の世話や気づかいなど、多様なケア役割を担っている人を「ケアラー」と想定しています。

地域参加型の調査手法をとって、全国で5地区の調査ブロックを選定し、地域の社会福祉協議会やNPOなどの組織が、老人クラブや自治会などの協力を得て調査を行い、調査のプロセス自体がケアラー支援に結びつく地域活動となるようくみたてています。

介護者支援のさまざまな方法に関するニーズを介護者の属性別に体系的に明らかにしています。こうした調査は、これまで日本国内はもとより、早くから介護者調査の行われてきた諸外国にもなかったことです。

全国の5つの地区で各4,000世帯に調査をしました。

① 調査協力5地区

北海道栗山町全世帯、東京都杉並区高円寺地区、新潟県南魚沼市、静岡県静岡市葵区、京都府京都市山科区音羽川学区

② 1次調査：無記名質問紙調査（アンケート調査）[2010年8月～10月]

- 調査協力5地区の中でほぼ行政区でまとめた各約4,000世帯
- 配布21,641世帯、有効回答数10,663、回収率49.3%

③ 2次調査：「面談による調査（インタビュー調査）」[2010年10月～12月]

- 協力ケアラー203人（202世帯） ・ 地域インタビュアー60人

こ
ん
な
人
が
ケ
ア
ラ
ー
で
す

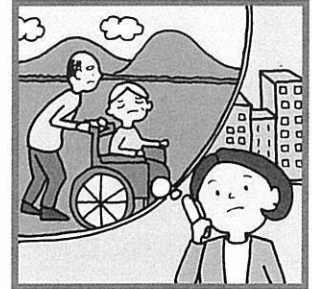
「ケアラー」とは、「介護」「看病」「療育」「世話」「こころや身体に不調のある家族への気づかい」など、ケアに必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする、たとえばこのような人のことです。



がん、難病、精神疾患など
病気の家族の看病をしたり、
いつも気にかけている



お年寄りや障がいのある家族の
世話をしたり、
介護をしたりしている



遠くに住む親が心配で
よく電話をする



ひきこもりや
不登校の家族の
世話をしている



近所の一人暮らしのお年寄りの
世話をしたり、
買い物の手伝いをしている



アルコール、薬物、
ギャンブルなどの問題をもつ
家族を抱えている



障がいを持つ子どもを
育てている